

Q2 「勤労観・職業観」と「学びをつくり出す4領域8能力」のつながりは？



A: **学びをつくり出す4領域8能力は、学習観や勤労観・職業観などの価値観を身に付けたり、発揮したりするために必要な能力です。**

(1) 勤労観と職業観

…2つを結ぶ

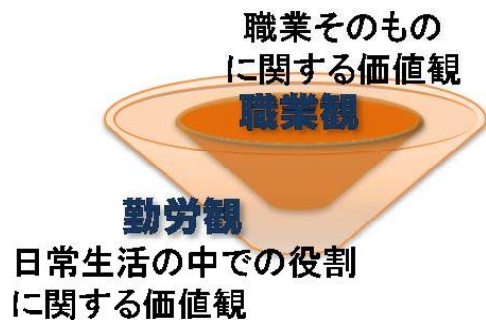
キーワード「役割」

<手引Ⅰ:Q2参照>



■ 「手引Ⅰ」でも説明していますが、キャリア教育を進めるにあたっては、『**能力や態度の育成** による **子どもの内面の変容**』
 学びをつくり出す4領域8能力 勤労観・職業観
 を強く意図することが必要となります。

■ 本研究では、勤労観と職業観を、日常生活(学習を含めて)や職業を通して獲得する「役割」を果たす意味や、その内容全般に対する見方や考え方(価値観)としています。いずれも「役割」というキーワードがポイントです。望ましい勤労観を礎として、望ましい職業観は育まれていきます。

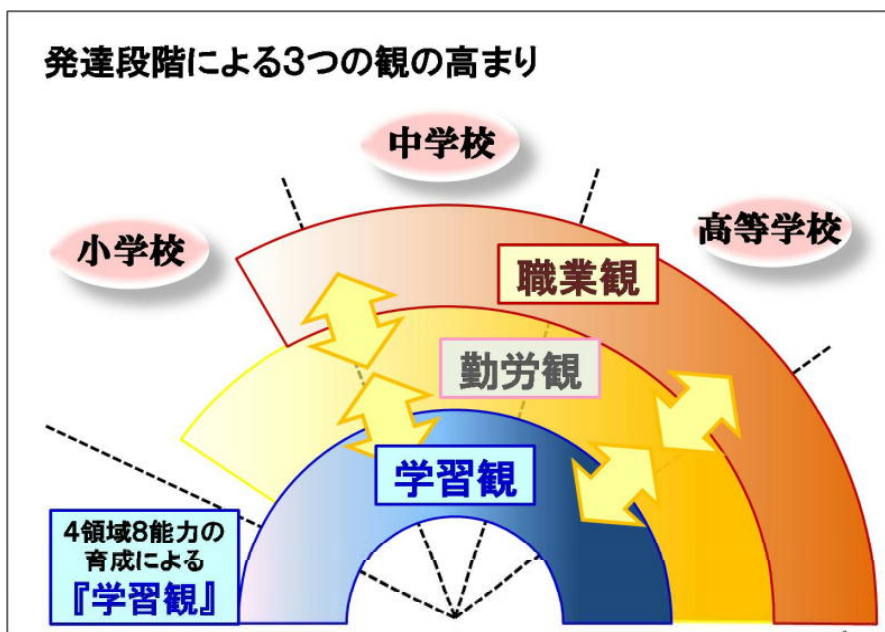


(2) 学びをつくり出す
4領域8能力の育成
による学習観

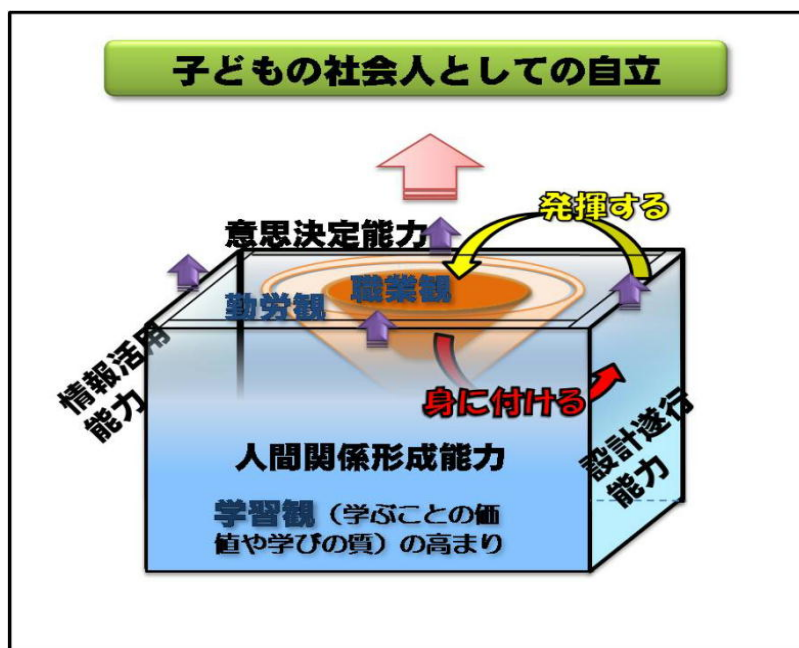
■ 学びをつくり出す4領域8能力は、学習場面では「学び方」として育むもので、その伸長は、子どもの「学習観」の高まりとして捉えることができます。特に、「学習観」を学びの中で確実に育むことにより、「勤労観」や「職業観」を高めることができると考えられます。また、これら3つの観は相互に関連して、発達段階に応じて育まれていきます。

3つの観→



- ・学習観
- ・勤労観
- ・職業観



(3) 勤労観・職業観と
学びをつくり出す4領域
8能力のつながり



■ 学びをつくり出す4領域8能力は、将来社会人として自立し、役割や責任を果たしていくために必要な学習場面で育むべき資質や能力です。これらは、発達段階に応じて段階的・計画的に育まれることで、学ぶことの価値や学びの質そのものを高めることが期待できます。さらに、学びの質が高まることで、日常生活や職業を通して「役割」を果たす意味についての見方や考え方も高めていくことができるのです。

あるときは、身に付けた勤労観・職業観に基づいて、働くことや生きることの目的が学びの動力となり、能力を身に付けたり高めたりする場合（図中 ）もあるでしょう。また、学びの質が高まり、能力を発揮する（図中 ）ことで、より豊かな勤労観・職業観を獲得していく場合もあるはずで、この積み重ねが、子どもの社会人としての自立につながるのです。



つまり…◆学びをつくり出す4領域8能力と勤労観・職業観は、学習場面で発揮したり、身に付けたりしながら、相互に高め合っていくんですね。



『福岡の教育ビジョン』との関連

学ぶ意義を理解し、社会人として自立するために必要な自己の「役割」が見えてきた時、学びをつくり出す4領域8能力を身に付けた子どもは、積極的にその「役割」を果たそうとします。また、その「役割」を遂行することで、さらに勤労観・職業観を高めていきます。



このような姿は、教育力向上福岡県民会議が提言した「福岡がめざす子ども」の姿にも重なります。「どのように学んだのか」という自覚を重視することは、学びをつくり出す4領域8能力を育てることに直接つながります。また、役割への自信を深めたり、次の学習への意欲を高めたりするなどの好影響を及ぼすことも十分に考えられます。